

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター カトリック仙台司教区・カリタスペース

(宮古・大槌・釜石・障がい者センターかまいし・大船渡・米川・石巻・福島デスク・原町・もみの木・CTVC)

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

今年も残り2か月となり、各地で秋から冬へと季節が変わりつつあります。今回は、少し前となりますが、障がい者自立センターかまいしの夏のイベントと交流会の様子と、青森明の星短期大学からボランティア体験報告が届きましたので、ご紹介いたします。そして、カリタス石巻ベースとカリタス米川ベースの秋らしい活動と現在行っている活動をご紹介させていただきます。

最後に、10月22日に札幌市の天使大学で開かれました「震災復興支援シンポジウム」に、仙台教区サポートセンターのスタッフがお招きを受けて参加してきましたので、その様子をご紹介いたします。

NPO 法人 障がい者自立センターかまいしからの活動報告

2015年夏 イベントと交流会開催

名古屋教区社会福祉委員会 村上 かづ

いよいよ秋が深まって来ました。いつの間にか、山の上の方から紅葉も始まって来ています。今回は、夏の活動の一部をご紹介いたします。

夏のイベント「夏を思い切り楽しむ会」(仮) 実施

昨年実施して皆さんから好評だった、「夏を思い切り楽しむ会」(仮)を、今年も行いました。ちなみに2014年の様子は、仙台教区サポートセンター制作の東日本大震災復興支援カレンダー7月に掲載されています。

まずは、すでに恒例となりつつある流しそうめんで昼食です。雨どいを使う仕掛けも馴染みのあるものになりました。今年はスタッフも加えると総勢23名となったため、雨どいがさらに延長されました。暑さの中、そうめんを茹でるのも必死です。ご近所さんからいただいたミニトマトなどの野菜も流すことになり、すでにこの段階でおなかいっぱい。



午後は、一旦、通常の活動をした後、夕方から焼肉が始まりました。あんなにたくさん食べたはずなのに、やはりみんなで焼肉となれば、自然とお箸もすすむものです。いわゆる「食いだめ」をしたのかと見まがうかのようなお腹の方も現れました。そして食事だけではなく、普段とは違った交わりの中で、さまざまなお話の花も咲いていました。

さらにこの後、宿泊組には、花火、語らいの会と、プログラムはまだまだ続けました。

「いわて GINGA-NET」のみなさんとの交流会

「いわて GINGA-NET」さんは、震災後の学生ボランティアの拠点作りから始められた復興支援団体です。この度、私たちとの交流もプログラムに組み入れて下さり、有意義な一日を過ごすさせていただきました。

当日は、15名の皆さんをお迎えし、お互いの自己紹介から始まり、お昼ご飯作りで交流を深めました。今年いただいた「たこ焼き器」を使って、たこ焼きと焼きうどんを作りました。とにかく大人数なので、

人数分を作るのがとても大変。調理場も油や煙の臭いで、すごいことになりました。私たちは器材をいただいたばかりで、でき映えにばらつきのあるたこ焼きになってしまうのですが、学生さんの中に慣れた手つきの方がおられ、お陰様でおいしいお昼ご飯で交流会を持つことができました。

午後からは、当法人の理事をお願いしている中村さんの、震災当時から避難生活までの語り部としてのお話しを、皆さんと一緒に聞かせただけでした。

「視覚障がい者福祉協会」の沿岸支部では、語り部活動を行っており、釜石圏域でも数名の方々が、全国各地にお話しにお出かけになられているとのことです。

利用者さんの中には、「聞いていると、あの頃が思い出されて泣けてくる…」と、お話しされる方もいました。学生さん方は、お話の後、実際に中村さんがたどられた避難路を歩いてみる体験もされていました。

県内をはじめ全国各地から、ボランティアをしたいと参加されていたみなさんのご意志の高さに、私たちも気持ちを新たにしたいと思いました。皆さんの今後のご活躍をお祈りさせていただきたいと思います。

季節はこれから実りの秋を迎えます。これから藍染めなども予定されており、みなさんと協力しながら、楽しい時を過ごして行けたらと思っています。

青森明の星大学

震災ボランティア体験報告 (2015年8月30日～9月5日)

青森明の星短期大学 田口 和宏 (引率教員)

被災地は、4年半が経過し、震災当時の面影はほとんど見られなくなってしまいました。多くの人びとの記憶からも忘れられようとしていることを痛感します。

今回、11名の学生が震災ボランティアに参加してくれました。参加した学生の感想を見て、共通していることの多くは、復興は進んでいるようだが、大槌や陸前高田もかさ上げ工事の真っ最中で、被災された人々が元の暮らしを取り戻すのはまだまだ先のことと感じているようです。また、このボランティアの経験を通して、生きる力を学んだこと、機会があれば自分でまたボランティアに行ってみたい、ということなどが綴られていました。

4年半あまりが経過しても、実際に被災地に行き、ボランティア活動を通して新しく気付いたことがたくさんあったようです。

震災ボランティア活動を企画した側としてもそのことは、とてもうれしいことです。日常の暮らしから離れ、一週間の被災地でのボランティア体験は、若い学生時代に大きな生きる力となったことを感じます。これからも、被災地のことを思い、真の復興を心から応援してほしいと思います。2年前に参加した学生がこのようなことを語っていました。

「震災ボランティアとは、被災者の気持ちに寄り添い、共感し合い、共に涙し、未来への希望を共に作り上げていく姿勢そのものではない

でしょうか。私の考えるボランティアとは、金銭の援助や物的援助だけではなく、自らを使い、人々の生活に基づいた必要とされた助けをすることだと思います。被災者の心の傷は、私たちの想像をはるかに超えるものだと思います。一時的な助けでは、その傷の深さは埋まることはありません。しかし、どんな小さな行動でも長期に積み重ねることにより、その心の傷は和らいでいくのではないのでしょうか？」

若い学生が、被災地のボランティア活動を通じて、年ごとに貴重なことを学んでいることを感じます。どのボランティア活動にせよ、ボランティアを通して学ぶことは、平和を愛する心が基調になればなりません。人の喜びを我が事として共に喜び、信頼しあい、人として助け合って成長していくことだと思います。今回の活動で得たことをこれからの自分の人生に生かしていってくれることを願っています。



九州からのボランティア（ビブス着用）とともに記念撮影
カリタス釜石・ふいりあ

《2015年夏・震災ボランティア体験報告》

○日程：2015年8月30日～9月5日

○活動場所：カリタス釜石、カリタス大槌ベース

○活動内容：

- ・大槌町、釜石市、陸前高田市の視察研修
- ・花と夢いっぱいプロジェクト活動
(バイパス沿いの花壇の草取り、ベース周辺の草取り)
- ・吉里吉里で土ふるい
(木を植えるために山から運んできた土の中に埋まっている大きな石を取り除き、決められた場所に運ぶ作業)
- ・仮設住宅やふいりあでのお茶っこサロン
- ・仮設住宅の清掃（入居者引っ越し後の空き部屋清掃）
- ・草むしりと芋掘り
- ・水産加工場でのボランティア（イカの入っていたかごを洗う作業）
- ・ベースでの調理担当（ベース滞在中のボランティアさんの食事準備）

《学生の感想》

・地域の方々は、とても暖かく迎えてくれて、楽しんで活動することができ、1週間という期間があっという間だった。帰るときは、お別れするようで、すこし寂しい感じがした。

・ボランティアに参加する前は、力仕事のようなものを想像していましたが、それだけでなく現地の方々の心に寄り添い、耳を傾けるということもボランティアの一つであると知りました。ボランティアとは、何なのかを考えさせられ、幅の広さを知ることができた1週間でした。



・花と夢いっぱいプロジェクトの一環として、バイパス沿いの花壇などの草取りや樹木を植えるために山から運んできた土の中に埋まっている大きな石を取り除き、決められた場所へ運ぶという土ふるいの作業など、様々なボランティアをしたが、正直、自分が復興の役に立てたのかわからない。しかし、活動を通して、震災にあったすべての地域がすこしでも明るい未来に進んでいけるのならば幸いと思う。

・芋掘りや水産加工場でのイカの入っていたかごを洗うという作業は、最初、直接震災復興に関係ないと思っていたが、また畑をやることや水産加工ができることは、たくさんの人の力があり、被害にあった方々がもう一度頑張ろうとしたことがあったからこそだと思った。



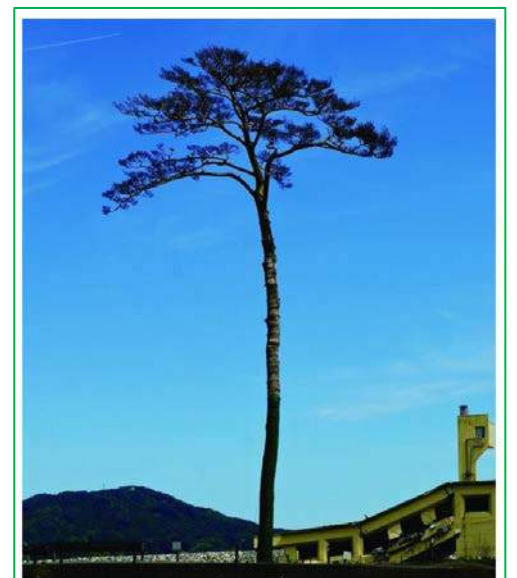
・傾聴の大切さ、コミュニケーションで注意するポイントなどとても悩んだ。普段何気なくやっていることが本当に良いことなのか、ボランティアとはそもそも何をするのかなど改めて感じる事が多く、自分にできることを全てやった気はしなかったが、将来の夢に向けて勉強を頑張っていこうと思うことができた。

・視察では、津波の被害を受けた場所ほとんどが、かさ上げのために建物はまだ建っておらず、復興がそれほど進んでいないという印象を受けた。そのことが、むしろ貴重なものを見ることができた良い視察だと思った。

・テレビで見る被災地の様子では、ほとんど復興が進んでおり、津波被害にあった地域にも家が建っていると考えていた。しかし、実際に被災地を視察してみると、仮設住宅もまだまだたくさんあり、ショベルカーやトラックが土をおろしに何度も行き交い、盛り土も完成していない状況で、住民が住みやすい環境にはなっていなかった。復興があまり進んでいないと感じ、そのことを伝えていかなければならない、復興のための活動を自ら進んでやらなければならないと思った。テレビや映像ではわからないことが多くあるため、多くの人に現在の被災地の状態を知ってもらい、実際に足を運んでもらいたい。

・視察の際、まだがれきがたくさん積み重なっている場所や民家が全部無くなり、盛り土工事を行っている場所を見た。供えられている花の中には、未だ行方不明の方への「4年経った今でもあなたを待っています。」と綴られた手紙もあった。がれきも無くなり、一部は片付けられ、きれいになったかもしれない。しかし、行方不明者がいる限り、本当の復興にはならないのではないかと感じた。

・陸前高田市の高田松原では、建物が荒れ果て、建物の中に木が埋まっていた。多くの木々が根ごと流されたのかと思うと、自然の脅威には敵わないと畏怖の念を抱いた。それとは対照的に、奇跡の一本松は、テレビなどで何度か目にしたが、実際見てみると、予想外の大きさに驚いた。何かパワーを与えてくれそうな「奇跡」という言葉にふさわしく、敬意さえ感じるものがあり、この一本松がある景色は、被害にあった方々にとって、やる気や元気を与えてくれるのではないかと感じた。



・着々と復興が進んでいる中で、全てがもとに戻るまであと何年かかるのか、と考えると気が遠くなるが、とにかくできることをやるしかない、そう強く思った。

・テレビで見たり、人から話を聞くより、震災の現場に直接行くことで、たくさんの情報を知ることや経験ができ、考えさせられることも多くあった。また、震災ボランティアの重要性や楽しさをもっと多くの方々に知ってもらうことが、復興への近道だと思った。少しでも震災ボランティアに興味のある方におすすめしていきたい。

「みんなで歌おう秋の歌」芋煮会

カリタス石巻ベース

10月10日（土）、石巻ベースでは「みんなで歌おう秋の歌」を開催しました。今年度から入ったスタッフの案で計画したこの企画。内容は、みんなで秋の歌を歌い、その後、おにぎりと芋煮汁を食べるというものでした。

ピアノの伴奏で「どんぐりころころ」から始まり、なつかしい童謡や唱歌をピアノに合わせ、全11曲を歌いました。参加された方々は「懐かしい」と言いながら、大変楽しそうに歌い、子どもの頃を思い出されたように歌うひと時を楽しまれていました。アンコールの時には、踊りまで飛び出していました。



皆さんの上手な歌声がホールに響き渡りました。

歌った後は、みんなでおにぎりと芋煮汁をいただきました。芋煮は、まかないさんの協力ですとてもおいしくできあがり、おにぎりも好評でした。普段と違う雰囲気での食事とあってか、話に花が咲いていました。

今回は、あまり広くイベントのお知らせをしなかったのですが、20名近くの方にお集まりいただき、オープンスペースとして利用しているホールにちょうど良いくらいの人数となりました。

今回をきっかけに、次回は「冬の歌」で開催できたらと思います。



たくさん歌った後は、おいしい芋煮汁を堪能しました。



～ カリタス石巻ベース・活動紹介 ～

皆様のボランティアへのご参加をお待ちしております。

カリタス石巻ベースでは、現在、主に4つの活動を行っています。比較的体力に自信がない方でも参加できる活動となっております。また、スタッフが被災地をご案内する被災地巡りを行うこともあります。被災地の今を知って、今後の活動のきっかけなど、何かを感じていただければと思っています。

◎オープンスペース 9:30～17:00（日曜定休日）

お茶を飲みながらお話をしたり、一緒にエコクラフトの作品を作るなど、利用される方々と同じ時間を共有します。



わからないところを教え合いながら、エコクラフトを楽しんでいます。

◎仮設でのお茶会

石巻市で5カ所、東松島市で1カ所の仮設に訪問し、集会場でお茶会を行っています。復興公営住宅などに参加して、お茶会の参加人数は少なくなってきましたが、仮設の方々が集まるきっかけになっています。

◎スマイルサポーター（花壇整備、道路清掃）

オープンスペースの活動と並行に行います。

花壇整備の方も、花の植え替え作業があります。



◎被災地巡り＊活動によっては案内できない時があります。

石巻市、女川町の被災した場所を巡ります。



女川駅前商店街 建設工事の様子
（12月末オープン予定）



石巻市門脇地区
かさ上げ工事が進んでいます

紅葉狩り＆温泉ツアー

カリタス米川ベース

米川ベースでは、今年の秋も、毎年恒例となった紅葉狩りを仮設住宅や復興住宅にお住まいの皆さんと楽しみました。

まずは9月28日、毎週水曜日にお茶っこを行っている柊沢仮設住宅そばに復興住宅ができたことから、仮設の方と復興住宅の方と合同で初めて遠足を企画し、栗駒山紅葉狩りと須川温泉へ行きました。

紅葉狩り当日、空は雲一つない快晴で、最高の行楽日和となりました。中腹までは、これからきれいな紅葉になる感じでしたが、頂上はとても綺麗で、皆さん大変喜んでいました。

お昼前に到着し、持参したおにぎりや栗ご飯、焼き魚などを食べ、須川温泉に入って帰ってきました。帰りは皆さん「花より団子！」と冗談を言いながら、道の駅でお買い物を楽しんでいました。



今回は、男性2名、女性10名の参加となりましたが、仮設住宅からよりも復興住宅からの参加者が多く、終の棲家になる場所でのコミュニティを大切にしていこうという気持ちがあるのだなと思いました。初めて会う人同士も多かったのですが、きれいな紅葉と温泉につかりながら、少しずつ仲良くなっているようでした。

少しでもこれからのコミュニティ作りのきっかけになれば何よりです。そして、また来年も一緒に行けたら良いなと思いました。



杣沢仮設住宅及び復興住宅の方々と紅葉狩りへ

また、10月9日は、港仮設のみなさんと紅葉狩りと温泉ツアーに出かけました。場所は、杣沢の方々と同じく栗駒須川温泉へ。紅葉の彩りは絶景で、仮設の方々も、紅葉に温泉、お食事にお買い物にと、リラックスして楽しく過ごされていました。絶景の紅葉を眺めながら、みんなで食べる食事は、おいしさも格別でした。

港仮設は、この3月まで、毎週金曜日にお茶っこへ通っていた仮設でしたが、南三陸町で一番早く土地の整備が完了し、多くの方々が仮設から新規住宅へと移動されました。それでも、仮設でできた絆を頼りに、不定期でこうしたイベントや古巣の港仮設集会所を利用してのお茶会を行っています。

転居後の生活は、人と会って話をする機会が少ないようで、お茶会がさらなる楽しみへと期待されているのを感じます。紅葉狩りも気兼ねなく、みんなで存分に楽しむことができました。



少人数で、和気あいあいと楽しみました

その他、10月8日は、お茶っこでお世話になっている吉野沢仮設住宅の自治会長さんが企画した日帰り温泉ツアーに、おばあさんたちの補助という立場で参加することができました。紅葉はまだでしたが、普段お茶っこに来られない方たちとも交流を持つことができ、楽しいひとときとなりました。

～ カリタス米川ベース・活動紹介 ～

皆様のボランティアへのご参加をお待ちしております。

現在、米川ベースでは、お茶っこ、漁業支援、農業支援、障がい児放課後預かりのお手伝いなどの活動を行っています。その様子の一部をご紹介します。

〈お茶っこ〉

お茶っこでは、おばあさんやおじいさんと食べ物や方言、昔の話で盛り上がりたり、時に、震災時の話や復興住宅についての真剣な話になることもあります。

子どもが来てくれる仮設では、子どもたちと集会所の内外でめいっぱい遊んでいます。



〈農業支援〉

野菜の種まき前の準備から収穫まで、様々なお手伝いをしています。



〈漁業支援〉

わかめや昆布、牡蠣やホタテ養殖の準備・出荷のお手伝いなどを行っています。



〈障がい児放課後預かりお手伝い〉

南三陸町で児童発達支援・放課後等デイサービスを行っている2つの団体のお手伝いを行っています。



＊南三陸の復興道路

被災地はものすごい速さで、景色が変わっています。ダンプカーが行き交い、昨日まで通れた道が通れなくなったり、逆に昨日まで使っていた道から新しい道へと誘われたり、驚くことがたくさんあります。10月初め、新しい復興道路が開通しました。盛り土をした山の上の新しい道をぴゅーっと通っていきます。旧道路は、盛り土の合間をめぐうように通っていましたが、新しい道は山の上を通るので、「ずいぶん高いところまできたなあ」という感じです。このような景色は被災地ならではのもので、急激な変化に戸惑いもありますが、新しい町への期待とともに、みんなで活動に出向いています。



天使大学 「震災復興支援シンポジウム」に参加して

仙台教区サポートセンター 濱山麻子

札幌市の天使大学からお招きを受け、10月22日に開かれた「震災復興支援シンポジウム」に参加してきました。

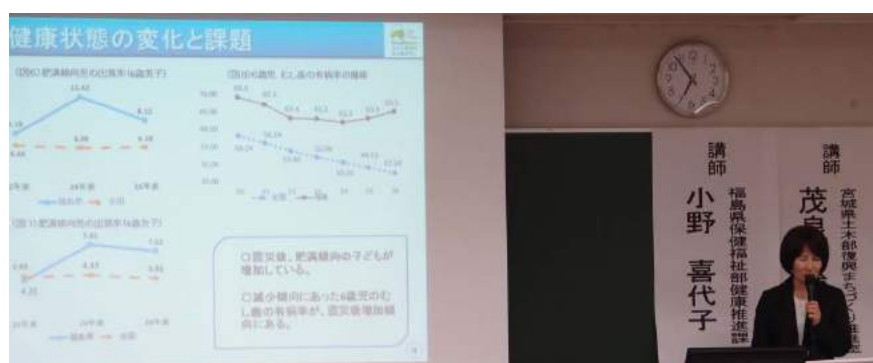
天使大学は看護学科と栄養学科がある大学で、2011年から震災被災地への支援を行っています。ボランティアの情報を集めて学生さんへ呼びかけ、交通費の補助や、報告会を開いて支援の輪を広げています。また、栄養学科の学生さんたちによる東北の食材を使ったレシピブックの発行や大学祭での物販など、様々な角度から被災地を支援しています。

今回のシンポジウムは「震災から5年目を迎えて～今私たちにできること～」というタイトルがついていました。震災から4年7ヵ月が経ち、関心が薄れていくことを危惧しているとのことでした。



宮城県土木部復興まちづくり推進室 茂泉博史さん

前半は宮城県土木部復興まちづくり推進室の茂泉博史さんと、福島県健康福祉部健康増進課の小野喜代子さんがそれぞれのお立場から、県内の現状と課題について話されました。復興公営住宅の建設が進み、宮城県内では建築予定数のほぼ全部が完成した町もありますが、「自分がこれからどこに行けば良いのか分からない。」と、仮設住宅に留まっている方がどの町にもいらっしゃるそうです。地元の雇用がないことから、若い世代の人口流出が続いていることも深刻な問題です。また、福島県では震災後に子どもたちの虫歯や肥満が増加傾向にあること、避難先から安心して帰還し、健康に暮らしていくための支援が必要であることが話されました。



福島県保健福祉部健康増進課 小野喜代子さん

後半は、ボランティア経験がある在学生と卒業生、サポセンスタッフが加わり、それぞれの活動についてお話し、ディスカッションを行いました。札幌から岩手の被災地までは12時間以上かかるということでしたが、お二人とも何度も足を運んでいるそうです。在学生の金川綾香さんは、釜石市で子どもを対象にしたNPOの活動に参加しています。子どもたちに季節の行事など「普通の楽しみ」を提供したいという思いから、様々なアイデアを出して実践していることや、実際に親を津波で亡くした子どもと接した体験を話していました。



活動について説明を行う仙台教区サポートセンターの濱山

卒業生の濱田和実さんは、在学中に札幌カリタス宮古ベースでの活動に参加していました。現地に行くたびに住民の方から「おかえり！」と迎えられて元気をもらったこと、震災体験をふり返っても全く動じず、お元気な方もいる一方、男性はあまり集まりに参加されず、戸別訪問を行っていることなどを話しました。今は看護師として働いているため、宮古の方々を気にかけて、なかなか現地に行くことができないという濱田さんは、「大学やカリタス札幌からの補助を使って、ぜひ学生のうちにボランティアに参加してほしい。」と話していました。

サポートセンターからは、札幌教区を始めオールジャパン体制で続いているこれまでの支援活動と、復興公営住宅へ住民の方が移り始め、多くの支援団体が撤退していく中、新しい土地へ移った方も残される方も、コミュニティの再形成の必要があり、不安を感じておられる方が大勢いらっしゃることを、支援はこれからも続いていくことをお話ししました。



参加者は天使大学の学生さん、教職員、市民の方など50名ほどで、プロジェクト担当の先生は人数が少ないと仰っていましたが、平日の夜、学生さんは講義が終わって疲れている時間に、これだけの人が復興支援についての話を聞こうと集まってくださったことが大変ありがたく感じました。また、ディスカッションの中で「まだボランティアが必要とされているのだから、ぜひたくさんの方に参加してほしい。SNSなど若い人に伝わりやすい形で情報を出してはどうか。」という声もいただきました。復興支援について関心を持ち、「自分にも何か出来ないか。」とお考えの方は今もたくさんいらっしゃって、そこに向けて積極的に情報を発信していく努力、工夫が必要なのだとすることに気がきました。

自分の話した内容については反省する点が多々ありましたが、行政としての取り組み、ボランティアの経験や学生さんの思いを聞き、これからの自分の課題を見つけることもでき、大変有意義な経験でした。お招きくださった天使大学東日本大震災復興支援プロジェクトの皆様へ心から感謝いたします。

《復興支援カレンダー 名称変更のお知らせ》

前号でご紹介しました「復興支援カレンダー」につきまして、これまで「東日本大震災 復興支援カレンダー」として発行していましたが、被災地はまだ復興の途中ですが、前向きな気持ちを込めて、今回は「東北復興応援カレンダー」と名称を変更して作成することになりました。名称以外に変更はございません。11月下旬からお申し込みくださった順に発送させていただく予定です。皆様からのたくさんのお申し込みをお待ちしています！

* カレンダーは、在庫が無くなり次第終了となります。

お早めにお申し込みいただけますよう、よろしくお願いいたします。

* お申し込み方法等は、インターネットから『仙台教区サポートセンター活動日記』の『2016年「東北復興応援カレンダー」制作中！』記事をご覧ください。

《お問い合わせ・お申し込み先》

仙台教区サポートセンター

FAX: 022-797-6648、TEL: 022-797-6643

Eメール: sendaidsc@gmail.com